

運動の秋・スポーツセンター活用される



運動するには心地よい季節を迎え、スポーツセンターでは様々なスポーツイベントが行われました。9月29日に、東海大学附属札幌高校男子柔道部監督の佐藤優作さんを招いての講習会（上ノ国町柔道スポーツ少年団主催）が行われ、団員15人が受講しました。佐藤さんからは実践的な技などが指導され、受講者はこれらを吸収しようと積極的に取り組んでいました。10月6日には、江上MBC主催による第16回上ノ国カップミニバスケットボール大会が開催され、道南地方の強豪の男女6チームが参加しました。



町の小学生が所属する江上MBCは男子の部で見事優勝し、乙部少年団との合同チームで出場した女子の部は準優勝でした。このほか、9月28日から30日まで、東海大学附属札幌高校女子バレーボール部がスポーツセンターなどで合宿を行い、上ノ国高校女子バレーボール部と合同練習を行ったほか、トレーニング施設やランニングデッキなどは、多くの町民に利用され、オープン4ヶ月を経過したスポーツセンターの来館者数は9888人（前年同時期の町民体育館と比較して2.1倍）と順調に推移しています。

寸劇で不審者対策を呼びかける



10月20日、滝沢小学校学習発表会で「上ノ国てつくい一座」が、寸劇「いかのおすし」を公演しました。これは今年から同校の学習発表会プログラムに地域の方々の出し物が加わり、その一環で出演したもので、地域住民や町内駐在所の警察官、滝沢小児童など18名が出演。内容は防犯用語「いかのおすし」を題材に児童の犯罪被害防止を呼びかけるもので、コミカルな演技で会場は大きな笑い声に包まれていました。



救急蘇生の重要性を学ぶ

10月22日、傷病者の救命率の向上を図ろうと救急医療講習会（檜山医師会・道江差保健所主催）が、健康づくりセンターで行われ、68人が参加しました。

始めに北海道立江差病院の伊藤靖院長が「救急蘇生法について」と題して講演し、救急車到着前の救急蘇生法実施の有無が救命率や社会復帰率に大きく影響していると指摘した上で、「プロに任せるのではなく、率先して救急蘇生を行うことが重要」と説いていました。

その後、参加者は上ノ国消防署の署員から心臓マッサージなどの救急蘇生法を学んだ上で、練習用人形で実践し、参加者した一人は、「聞くだけではなく、救急蘇生法を実践できてよかった。」と話し、いざというときの心構えができたようでした。